

## 認知症地域支援推進員のコラム

### 徘徊症状があっても安心して暮らせる町にしよう



平成30年度に羽根地区で“きずな会”という有志による助け合い組織が発足し、同年11月には“きずな会”を中心とした自治会の徘徊搜索模擬訓練が実施されました。この訓練では、実際の地域住民が、徘徊当事者役、家族役、警察役になりきり、声掛けの仕方や対応について実践的に学べたという声が多く聞かれました。

今後、認知症を発症し、家に戻れない方や道が分からなくなる方が全国的に増えていくといわれています。これは決して他人事ではなく、自分自身や大切な家族、親しい友人が発症し、危険にさらされる可能性もゼロではありません。認知症になっても地域でお互いさまの気持ちを寄せ合い、安心して暮らせる町を目指し、準備していくことが大切ではないでしょうか。

▼問い合わせ 扶桑町地域包括支援センター（扶桑町総合福祉センター1F）  
☎（91）1171 月～金曜日（祝日を除く）午前8時30分～午後5時15分

## 後発医薬品（ジェネリック医薬品）を利用しましょう

住民課 内線248

少子高齢化が進むなか、今後も医療費の増加が予想されます。薬代を軽減することで日本全体の医療費を削減することができます。自己負担分を除いた医療費は、みなさんが支払っている保険料や税金で運営されている各健康保険から支払われています。医療費の削減で健康保険の支払い額を抑えることは、投入されている保険料や税金の負担減につながることもなります。ぜひこの機会に後発医薬品（ジェネリック医薬品）について考えてみませんか。

### 後発医薬品（ジェネリック医薬品）とは？

「後発医薬品」とは、有効成分の特許が切れた「先発医薬品」（最初につくられた薬）と同じ有効成分と同じ量含み、開発元とは別の製薬会社が製造・供給している医薬品のことです。一般的には「ジェネリック（generic＝一般的な）医薬品」と呼ばれています。

### 効果や安全性は大丈夫？

有効性・安全性に実績のある先発医薬品と同じ有効成分と同じ量含み、同等の効用を持っています。また、有効性・安全性・品質は厚生労働省により厳格な審査がされている医薬品のため、安心してお使いいただけます。

### 値段はどうなるの？

医薬品の研究開発には莫大な開発費用がかかり、その費用が医薬品の価格に反映されています。後発医薬品はすでに有効性・安全性が確認されたものを使用するため、開発期間や費用を大幅に抑え、医薬品の価格を4割程度安くすることができます。

### 使うにはどうすればいい？

診察の際に、後発医薬品への切り替えの意志があることを医療機関に伝えましょう。後発医薬品の使用に不安がある場合、医師に相談してください。また、薬局で薬をもらうための処方せんに医師の署名やチェックが無い場合は、薬局で後発医薬品に切り替えることもできますので、薬剤師に相談してください。

### その他

すべての医薬品に、後発医薬品が存在するわけではありません。

また、有効成分や効果は先発医薬品と同じですが、その他の添加物の違いなどから先発医薬品と飲み合わせ等が異なる場合もあります。

アレルギーなどがある場合は後発医薬品を選択できないこともありますので、医師、薬剤師にまずご相談ください。